八戸市立 市川中学校 学校だより「じょ」

平成28年12月6日(火)

校長通心 No.78 校長 馬渡教二

きみはぼくのともだち　原田郁子

眠れないのなら そばにいるよ
星のみえない夜
心の奥に沈む 悲しみ そこまでゆこう

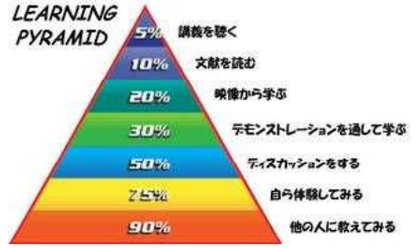
自分をうまく出せずに わかりあえずに
そっとキズついて
ホントを探しつづけるうちに
遠まで来たんだね
そばにいるよ
ちいさな明かり灯して
そばにいるよ
きみはぼくのともだち

あの頃ぼくらが 好きだった歌を歌おう
誰にも頼らないで
ひとりきりで 生きているきみは
ホントを探しつづけるうちに
遠くまで来たんだね
そばにいるよ
小さな明かり灯して
そばにいるよ
きみはぼくのともだち
きみはぼくのともだち

文車輪でつける力の最後は「学ぶ力」そして3年生は自立（自己決定力）の時

今日12月の全校朝会は、文車輪でつける最後の力「学ぶ力」そして、3年生にとってはいよいよ進路決定（自立）に必要な『自己決定力』についてだった。

何故山に登るのか？と問われた英国の登山家ジョージ・マロリーは「そこに山があるから」と答えたのは有名だけれど、日本を代表するナチュラリスト今西錦司氏は生涯で1552の山に登り、同じ質問に対して「向こうに山が見える。その山に登ったらまた向こうに高い山があったから次々と登るのだ」と答えた。これは学ぶことの本質を突いている言葉だと思う。**一生懸命に勉強してある地点に到達すると、そこからしか見えない新たな視界が開けてくる。人間はその視界の向こうにあるものを目指してまた、次の一歩を踏み出す**……という感じである。学習という言葉だって、**「学」のまなぶは、ま似る**からきているし、**「習」のならうは、慣れる**からきている。つまり、赤ちゃんが言葉を覚えるときなんかは大人の言葉を真似て、それにだんだん慣れることで会話できるようになるのと同じである。**学ぶ方法として一番効果のあるのが、人に教えること**であり、右のラーニングピラミットでみると90％も頭の中に記憶される。だから、最近は授業でグループやペアで教え合ったりする場面がたくさんあるはずだ。学校ではアクティブラーニングと呼んで、みんなが主体的に協働的に学べる工夫をしている。本年度の市川中の学校目標『文武両輪と絆シャフトを土台にして「コミュニケーション能力（話す・聞く・読む・書く）を高め、相互に貢献し合おう」』は、まさにそれを目指していると言ってもいいと思う。



学ぶ力は、本来他人と比べるものではなく、全く個人的なものと言っていい。つまり、**時間の経過とともに、前の自分より進化しているかどうか**が大切なのである。昨日の自分より学んでいるか？今日の自分より明日の自分が学べているか？…そして、学ぶ力の一番大切な資質は、**「素直さ」と「信じること」**…つまり、オープンマインドなことである。他者からの発信を受け入れる素直さと、知らないことに対して手を挙げて「私は知りません」と涼しい気持ちで言える素直さは、知らないことを学ぶときにとても大切な要素になる。…でも、「そんなことも知らないの？」と言われるのが恥ずかしかったり怖かったりして、なかなか素直に聞けないことも多いかもしれない。でも、ものを知っている人間は、ものを知ることがどれだけ大切かをわかっているし、自分がどれだけ無知かという思いを何度も経験し、そのたびに人に聞いて学んでいる人だから「そんなことも知らないの？」とは絶対言わないような気がする。二つ目のポイントは、**教えてくれる師を自ら見つけ、「教えてやりたい」とその気にさせる」こと**である。学ぶべき事は分かっていても誰に教わったらいいのかわからなければその先に進めないし、見つけ出した師に、「こいつに教えてやりたいな」と思わせるためには、丁寧にお願いする礼儀正しさや礼儀作法が一番大切な要素になる。みんなが先生たちをはじめ大人に支援を求めるとき、その大人に「この子に教えたい（支援しよう）」と思わせるには、**『謙虚さ』と『素直さ』と『礼儀正しさ』と『真剣な眼差し』**が欠かせないのである。「知りません」と素直に言えて「教えてください」と礼儀正しくお願いできれば、『学ぶ力』は進化し、力が伸びていくはずである。…つまりは、みんなそれぞれの**「人間力」そのものを鍛え、培っていくことが、最大の近道**だということなんじゃないかな？……よく、「そんなこと、知る必要がない」とか「知らなくても自分は困らない」と強がる人もいるけれど「知らなくて平気だ」と言った瞬間にその人の知性は止まってしまうことだから、この言葉は禁句である！！

そしていよいよ3年生は進路決定の時である。**本当に自分のやりたいこと（将来やりたいことへの通過点として）につながる進路選択とは、自分が本当に好きなことがいったい何なのかということを、自分自身の心の中の声と、よく相談して確かめることから始まる**んだと思う。思春期のみんなにとって、自分の将来のことについて真剣になればなるほど、不安や悩みもいっぱいになるんだろうけど、大部分の人が同じ悩みを抱えているはずだ。もちろんそれがまだわからないから高校でやりたいことを見つけるという人もいる。それはそれでいい。

例えば、同じくらいの力（学力）を持っているA君とB君がいた。A君もB君も将来は工学系の大学で専門知識を学んでコンピュータのプログラマーになりたいと考えていたとする。A君は県立の工業高校を受験してみごと合格、B君は同じ県立の工業高校を惜しくも失敗してしまった。3年後、A君は工業系の大学を受験したけど今度は失敗しコンピュータの専門学校に進み、みごとプログラマーとなり仕事をしている。一方B君は私立の工業高校に進み、成績がよかったため、A君の失敗した工業系の大学に推薦で合格し、プログラマーとしての仕事をしている。（鶏口となれど牛後となるなかれ）。この二人の例を考えると、A君もB君も自分のなりたかった職業に就くことができ、自分の目標（夢）を実現したわけである。ただ、そこにたどりつく道に違いがあったにすぎなかったのだ。でも、目先のことで判断していけば、B君は県立高校に失敗した、A君は大学に失敗したとなる。よく考えると、高校生活3年間、大学生活4年間、専門学校生活2年間という時間をみれば、中学校を卒業してからその先の学校で学ぶ時間は多くて7年、少なくて3年、実際、社会に出て仕事をする時間は30年以上である。長い目で考えたら、**なりたいものにたどりつく道は人それぞれであって、その道のたどり方が精いっぱいであれば、おおげさに失敗なんていうことはない**のでは…？と感じる。さて、みんなが社会で活躍している2030年頃は、少子高齢化が加速し、65歳以上が総人口の1/3、生産年齢人口は総人口の58%を占め、若い世代が老人を支えていかなければならない。また、グローバル化・情報化の進展でスピィーディーに複雑に広範囲に様々なものが伝搬し、先を見通すことが困難な時代。加えて、現在の半数の仕事が自動化され、今存在しない仕事に就く人が65%におよぶと言われている。そういう社会で幸せをつかむためにも文武両輪＆絆シャフトがあるのだと思っている！！

サヨナラCOLOR 永積タカシ

そこから旅立つことは
とても力がいるよ
波風立てられること
嫌う人はかけて
でも 君はそれでいいの？
楽がしたかっただけなの？
僕を騙していいけど
自分はもう 騙さないで
サヨナラから 始まることが
たくさん あるんだよ
ほんとのことが 見えてるなら
その思いを 僕に見せて

自分を貫く事は
とても勇気がいるよ
誰も一人ぼっちには
なりたくはないから
でも 君はそれでいいの？
夢の続きはどうしたの？
僕を忘れてもいいけど
自分はもう 離さないで
サヨナラから 始まることが
たくさん あるんだよ
ほんとのことが 見えてるなら
その思いを 捨てないで
サヨナラから 始まることが
たくさん あるんだよ
ほんとのことは 見えてるんだろう
その思いは 消えないで
その思いを 僕に見せて